

第9回 ちむぐるプラン住民会議

平成30年9月20日(木)

【テーマ：小学生からの性教育～自分を大切にすることを学ぶために～】

1. 今回の企画説明・・・・・・・・こども課 前城課長
2. 小学生からの性教育・・・・・・・・吉澤さん(助産師)

【主な感想と意見】

- ①若年での妊娠・出産が良い悪いではなく、望まない場合は未然に防ぐ、事後は社会で支援していくのが大切だと思います。幼い頃、抵抗のない時期からの性教育導入はとても大切だと感じました。また、私たち大人も学んでいくことで、はぐらかしたりせず向き合えるのではないかと思います。
- ②南風原町が策定中の「妊娠期(胎児期)からの子どもの社会的自立までの包括的、継続的支援」、たいへん感動しました。今回の取り組みも含め町民のために様々な支援を策定している事を知ることができて良かったです。
- ③性の健康教育、ほんとうに大切なことです。しかし、性被害や虐待など、様々な暴力にあっている子どもたちや貧困の中で育つ子たちにとっては、なかなか命や愛が届かない場合も多いです。そのような子たちに届ける方法が課題です。またLGBTなど、小さい頃から社会や家庭で傷ついた子たちの人権教育も大切です。
- ④性被害や性暴力等、TVで観たり新聞で取り上げられても、どこか遠い話に感じていました。でも今日は身近にたくさんの未成年の子たちが経験をしていたと知り少しショックを受けています。胸が痛いです。これから自分も性に対して、どんどん伝えていけたらと思います。
- ⑤私は中学・高校の子を持つ保護者ですが、もつと早く誕生学からお話を聞いたかったと思いました。性に関しての情報がまったく耳に入ってこなかったし、このような事を知る場も無かったです。保護者がPTAとしてもっとアピールして広げていくことがとても大切だと知りました。こんなに子どもたちの明るい未来のために考えていただける方々と出会えて嬉しく思います。学校も学問だけではなく、性教育を小さい頃から取り入れて欲しいです。
- ⑥今日は有意義な時間をありがとうございました。実際のケースを聞けて、小中学生、子どもたちの現状を知ることができて、あらためて幼少期からの性教育は必要だと感じました。南風原町で「妊娠期(胎児期)からの子どもの社会的自立までの包括的、継続的支援」というものがあるのを知って嬉しくなりました。多くの子どもたちが幸せな未来を歩めるようになって欲しいと思いました。
- ⑦単純に「性＝セックス」と捉えずに、もっとオープンに話すことの大切さを知りました。幼い子も自分の大事なプライベートゾーンを教えて、たとえ親であっても気安くさわらせないことで自分で自分を大切に守れるようにする必要性を感じました。そのためには発達段階に応じた系統的、持続的な指導を考えていきたいです。また、積極的に外部講師も活用していきたいです。
- ⑧吉澤さんの実践的な性の伝え方は、一人の親として参考になる話ばかりでした。子ど

もたちの成長に応じた性教育を段階ごとに施す必要性を感じましたが、どう構築していくのか議論を深めて行きたいと思います。

⑨小学3年生と5才、3才の子どもがいます。性の話はやはり苦手でどの程度話しているのか解らなかったのが今回参加しました。子どもを愛している、大切だと日々伝えることで子どもは自分が大切にされていると思って自分を大事にして回りの人も大事にするという意見が心に残りました。幼少期からの性の話もかくさず照れずにしていきたいと思いました。

⑩「性教育」より「誕生学」から始めてもいいのではと思いました。親と子が一緒に性を学ぶ機会（場）がもっとあればいいのになと思います。あと、助産師がもっと地域で活躍できる社会になればいいなとも思いました。

⑪男の子3人の親ですが、男の子に伝えるには…？ どうしても“女の子”自分の身体を守るために…なイメージになりがちです。男の子へ伝えること、があればまた勉強したいです。

⑫性に対してのイメージは、やっぱり「はずかしい」、「こんなこと子どもに話していいの」と思ってました。大人がそのようなあやふやだったり、はぐらかしたりすることで子どものイメージも変わってしまうだと再認識しました。“正しく伝える事”が一番大事で、子どもと一緒に学んでいけばいいんだ。若年出産の子の居場所があれば、もっと守ることができると実感しました。助産師さんや保健の先生、誕生学の方など、性に関する大切な話をたくさん聞けて良い学びの場でした。

